

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3091800049
法人名	有限会社 春日苑
事業所名	グループホームえんがわ
訪問調査日	平成22年2月15日
評価確定日	平成22年3月9日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

#### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3091800049
法人名	有限会社 春日苑
事業所名	グループホームえんがわ
所在地	和歌山県岩出市畑毛108-2 (電話)0736-62-7300

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成22年2月15日	評価確定日	平成22年3月9日

## 【情報提供票より】(平成22年 2月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成20年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,800 円	その他の経費(月額)	55,800 円	
敷金	有( 300,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	230 円	昼食	345 円
	夕食	460 円	おやつ	115 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成22年2月1日現在)

利用者人数	17名	男性	6名	女性	11名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 82歳	最低	70歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡整形外科・西歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平屋造りの2ユニットのホームである。ゆったりした時間の流れの中で、入居者が2つのユニット間を自由に行き来できるように事業所全体で見守っている。職員は入居者の生活や希望に合わせて、出来るだけ当たり前のことを当たり前できるように支援している。特別な外出支援には特に力を入れ、自宅への外泊、買い物や外食など、できるだけ本人の希望に沿ったタイミングで、普段はいけないような場所にも職員といっしょにマンツーマンで外出できるように取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初回なので前回評価なし
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は初回であり職員全体での取り組みは難しいとの判断で、管理者、計画作成担当者がそれぞれの意見を持ち寄って取り組むことで、外部評価結果と共にサービスの向上に活かそうとしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議を通常2カ月に1回定期的に開催しており、家族、地域住民と共に市の職員も協力的で毎回参加している。報告だけに終わらず、サービスの質の向上に向けて話し合う機会を多く取っており、出された意見はサービスに反映できるように努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時に苦情・不満を聞きその都度改善している。意見等を出すことができる場として運営推進会議には全家族に参加を呼び掛けているが、参加者は少ない。また、1カ月に1回担当職員が家族あてに手紙を書き入居者の様子を知らせている。機関誌を発行したこともあるが、その後継続されていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市民運動会や自治会の消防訓練等に参加したり事業所のお祭りに地域の人に来てくれたり、交流の機会を多く持てるようにしている。また、地域の人が事業所玄関前の自動販売機を利用することが多く、その際に挨拶を交わしたりしながらよりよい関係が築けてきている。自治会へは、入会したい意向は伝えられているが、正式加入は認められておらず、協会員と言う立場で加入している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「当たり前にしたいことが、当たり前出来る場所」という基本運営方針をを理念としている。地域での暮らしへの支援を表すにはやや抽象的であり、明文化して表示することはされていない。		地域密着型サービスであることの意義を盛り込んだ事業所独自の理念を作り上げることに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や朝礼で職員に伝えるとともに、日々のケアの中で確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市民運動会や自治会の消防訓練等に参加している。近隣住民とは日常的な挨拶等の積み重ねで関係が築かれており事業所の祭りに来てもらうことでも交流を図っている。自治会には会則の都合で加入は認められていないが協力会員として行事等に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者、計画作成担当者らがそれぞれの意見を持ち寄って取り組んだ。他の職員を含めた取り組みはまだできていないが、評価を日々のケアを振り返る良い機会にしようとしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者本人の参加は無いが、市の職員も協力的であり、家族、地域住民を交えて概ね2カ月に1回開催されている。会議ではサービスの向上に向けての話し合いを中心に、活発に意見交換が行われている。出された意見については迅速に対応するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外には行き来する機会は少ないが、市の開催する研修会や行事には参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の異動や退職の報告は特に行っていないが、1カ月に1回、請求書送付時に担当職員から家族への手紙を添えてホームでの様子を伝えている。健康状態に変化があった時には手紙の中で伝えているが、金銭管理については希望があった時のみの報告としている。		金銭管理についても定期的に伝えていくことが望ましい。また広報誌などで定期的にホーム内の様子を伝えていく等の取り組みに期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの不満や苦情は来訪時に聞きその都度改善している。また家族会は作っていきたいと取り組み中である。運営推進会議には全家族に参加を呼び掛けているが、参加する家族は少ない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は今のところ行われていない。全職員がユニット専従ではなく2つのユニットに勤務しているので職員の異動による影響は受けにくい。入居者が不安にならないように個々に対応している。新人は全員に紹介するが、退職時の挨拶の有無は退職する職員に任せている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成は日々の実地指導が中心で研修計画は立てられていないが、外部研修にはできるだけ多く参加できるように機会が設けられており、また伝達研修も行なっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所や他のグループホームへの見学に行き、今後に生かしていく為レポートを提出して職員のケアの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の前に「お試し入居制度」を実施しており、本人が安心できる居場所になれる見通しが立った時点でサービスの開始としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員がユニット専従でなく全体で施設に近い勤務体系となっており馴染みの関係が作り難くなっている。入居者の言葉からも、施設で職員に行き届いたお世話をして貰っているとの認識が伺え、相互に支えあう関係が十分築かれているとは言えない。		入居者の職員に対する認識が「施設で行き届いたお世話をしてくれる人」から「グループホームという住まいで共に過ごす家族のような人」に変わるような取り組みに期待する。
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント用紙が統一されておらず、希望や意向を把握できる記録の工夫はみられないが、入居者の一人が書道の時に書いた「買い物に行きたい」との文字をその人の気持ちと受け止め、職員がいっしょに買い物に出かけるなど、本人本位のケアの実践に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画書作成はできているが、本人、家族、職員の話し合いが行なわれていないケースもあり、計画作成者独自の作成になっているところもみられる。		本人や家族の思いや意見を反映させる為に、職員全員で意見交換を行い計画作成をすること、またその記録を残して今後の計画書作成時に生かしていくような取り組みに期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書の見直し時の評価・経過記録等が十分に記録されていない。		月に1回程度計画書の見直しが望まれる。家族の意見がなく本人に変化のない場合も、経過記録をもとにモニタリングを行い、検討して記録に残していくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、自宅への同行、外食、買い物等、本人や家族の希望に沿って個別に特別な外出支援をおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週ごとにユニット別往診体制を持ち、必要時には医師との連携も取れている。また希望があれば希望医への受診の支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	きちんとしたマニュアルはまだ出来ていないが、その都度家族や主治医と話し合いながらターミナルケアまで行う方針で取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録は適正に取り扱っている。介護の場での声掛けや排泄の介助時にトイレのドアがあいている等、やや配慮に欠けるところがみられた。		職員間で統一した介助方法について検討会議を開いたりマニュアル等の共通理解を深めていくことにより入居者のプライバシーがより一層確保されることを期待したい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりとした時間の流れのなかで、希望を取り入れながら本人の気持ちに沿ったタイミングでの支援を行っている。入浴時間もできるだけ本人のタイミングで入浴できるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理時間の短縮のため調理済みの保存食材を再加熱するだけのクックチルを使用しており、調理や食事の準備に入居者が加わる場面は少ない。職員と入居者は食事を別にしており、介助以外の職員は周囲に立って見守りをしていた。		食事を楽しむために、匂い・季節感・色どり等が感じられるような準備や調理も含めた支援が望ましい。また職員と一緒に食卓を囲むことにより打ち解けた気持ちで食事を楽しむことができ、ケアの一環として、食事を楽しむことへの支援を検討されたい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は本人の希望に添えるよう配慮し、希望があれば夜8時まで対応できるようにして、入浴を楽しめるよう個別に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	十分活用されるまでにはまだ至っていないが、一人ひとりの得意なことや好きなことを探す為に「気づきノート」を作って入居者の情報を職員間で共有できるように取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者それぞれのタイミングに合わせて、買い物や散歩には適宜本人の気持ちに沿った外出が出来るようにサポートしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず見守っている。センサーを設置し、入居者が外へ出ようとした時には直ぐに職員に分かるようにして安全の確保に努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員と入居者が一緒に年2回避難訓練を行っていると共に、自治会の消防訓練にも参加している。職員は避難経路や方法を周知して災害時の安全確保に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は把握して記録に残している。また水分補給に配慮して、1日1,000mlは自分の好みのものを飲むようにサポートしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の部屋に炬燵が置かれるなど生活感もあり家庭的な雰囲気が感じられる。立派な雛段が飾られ季節感を表しているが、周囲の折り紙の飾りつけが不釣り合いで、住まいの生活空間としての共用空間の雰囲気を損ない、また、壁面いっぱい施された飾りつけにより、トイレの表示などが目立たず分かりにくくなっている。		入居者の住まいであることを配慮して、入居者が落ち着いた雰囲気の中で安心して暮らせる生活空間になるように、装飾品を見直し、配置にも工夫がほしい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得てそれぞれの馴染みの家具や身の回りの物、写真などを持ち込んで、その人らしい部屋となっており、落ち着いて居心地良く過ごせるよう支援している。		